

## 2025年度 学校関係者評価 報告書

学校法人創造社学園  
創造社デザイン専門学校  
学校自己評価部会  
学校関係者評価委員会

学校法人創造社学園、創造社デザイン専門学校創造社デザイン専門学校・学校自己評価部会学校関係者評価委員会は2025年度、学校自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告します。

## 1. 学校関係者評価の実施方法

学校関係者評価は、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく評価項目に沿って、学校法人創造社学園及び創造社デザイン専門学校の職員で構成する学校自己評価部会が実施した「学校自己評価報告書」について、企業実習引受先デザイン企業及び本校卒業生（デザイン事務所代表）の学校関係者評価委員による評価を行って頂いた。各評価員には、事前に学校自己評価報告書とその関連する資料等を配布した上で意見を聴取し、評価委員事務局が内容等について要約の上、学校関係者評価報告書として取りまとめた。

## 2. 学校関係者評価委員一覧

	委員氏名	所属機関・事業所	委員・役割	分野
1	岡 哲也	株式会社I&B-アライアー 代表取締役	会長・企業等委員	ビジュアルデザイン業界
2	杉山 陽二	(有)サ・デザイン・ラボ 代表取締役	企業等委員	産業デザイン業界
3	溝口 賢	Postics 代表	企業等委員	ビジュアルデザイン業界
4	上田 寛	株式会社 登プリント	企業等委員	ビジュアルデザイン業界
5	津田 光明	デザイン事務所 スペースQ 代表	企業等委員	産業デザイン業界
6	北野 ちあき	株式会社Ilファクトリックス 代表取締役	卒業生等委員	ビジュアルデザイン業界
7	金指 博文	デライトラボ 代表	卒業生等委員	産業デザイン業界
学校関係者評価委員 事務局				
1	木村 博昭	創造社デザイン専門学校 学校事務室長	評価委員会事務局	事務局

## 3. 委員会次第（概要）

開催日：2026年6月5日（金）

(1)開会

(2)学校本部長挨拶

(3)学校評価に係るプロセスと活用について説明

事務局から本学園の学校評価の目的や必要性及びその活用方法の説明を行った。

(4)学内評価の差異についての説明

事務局から、学内評価者の評価の差異についての説明とその課題について

(5)2025年度 学校自己評価報告

2025年度に定めた目標と重点的に取り組んだ計画の説明を行い、学校自己評価項目1～11の課題、改善の方策、取組状況等を報告した。

(6)討議・意見交換

各評価委員会から学校自己評価報告書の各評価報告に対するご意見やご指導をいただいた。又、これらの評価を教科課程編成委員会へ繋いでいくことを報告した。

(7)閉会

## 4. 評価項目ごとの学校関係者評価委員の評価と意見

	評価項目	委員評価コメント
1	教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に貢献するクリエイターの育成として社会の課題を解決し、「手段としてのデザイン」を教育する姿勢が良い。変化の激しい時代だからこそ、社会のニーズを的確に捉えて価値を還元できる人材を育てる姿勢も評価。</li> <li>・今年度は特に、学ぶ価値、共感づくり、運営組織改革にフォーカスし、学生募集事業・教育事業を行ってきた点は結果が出て評価できる。</li> <li>・持続可能でコンパクトな経営に努め、組織の壁を超えて多様な知恵の集積による統合力で学校の価値を高めている点も評価できる。</li> <li>・教科課程は毎年見直しをかけ、時代とともに進化させているところが良い。社会や暮らしの変化、テクノロジーの発展とともに、様々な動きがでてくる時代には、絶えずクリエイティブ能力の進化が大切で、それらを実行に移しているところが良い。</li> </ul>
2	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Instagramを公式と学校生活の日常の2つに分けて運用しているのは良い。どちらもこれまで以上に積極的に更新されており志願者はHPとは違った切り口で情報収集ができると思われる。</li> <li>SNS・スマホの使用者が多いのでこの取り組みは引き続き期待する。</li> <li>・昨年同様に5ヵ年の中期の事業計画から単年度事業計画の編成並びにその成果の振り返りがきっちりと文章化されている。</li> </ul>

3	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 継続して実施している、企業クライアント課題については引き続き力を入れて進めて欲しい。学内の課題としてだけでなく、社会との繋がり・自己PR等、企業クライアント課題にはメリットがたくさんある。 これまでの実績一覧を拝見しましたが、かなりのボリュームで創造社デザイン専門学校に期待している企業も多いと感じられた。</li> <li>• モノ・コトづくり学科必須の企業実習は1年生の段階から実際の仕事の流れやデザインの会社の雰囲気を感じられる場としては非常に有意義。 やむを得ない理由で振替になる学生もいるので、夜間部学生の実習の実施について検討して欲しい。 企業実習から採用に繋がったケースがあるのは良い。</li> <li>• 工房講座の横断的な解決手法が求められるこれからの時代において、学科・専攻の枠組みを超えて様々なスキルを身につける事ができる取り組みは素晴らしい。リクエスト講座も受け付けているとの事ですので、引き続き学生のニーズにも答えた魅力的な講座の実施を期待しています。</li> </ul>
4	学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進級、卒業制作の公開プレゼンを拝見しました。毎年感じている事ですが、作品の量・質、プレゼンテーションカどれをとっても非常に高いレベルです。十分に企業で通用すると感じました。</li> <li>• 進級制作のプレゼンは1年生とは思えない内容です。アルバイトでも採用したい企業は多いと思います。</li> <li>• ポートフォリオ展については学生毎にかなり差があるとは思いました。デザインが好きという気持ちはよく伝わります。欲を言えばもっと自分のPRツールとしてコンセプトをしっかりと決めてまとめた方がもっと良くなると思う作品がいくつかありました。 全体的にレベルは高いですが、就活では4年生大学の学生と競合するので、その点を意識すると就活にも有利になると思います。</li> <li>• 就職率もデザイン関連職への就職率が高いのは評価できる。特に学び直しの学生が多い中で、しっかりと就職を決めているのは前職等の経験を武器として活用できている、指導が行き届いていると感じました。</li> </ul>
5	学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワンストップ型の支援体制は学生からすると様々な事が相談できると思います。特に入学前から関わったスタッフが引き続き対応をする事で地方から入学する学生の保護者にも安心感がある。</li> <li>• 学費についても教育部署と分けて対応してはいるが、面談を通して様々な相談に乗っているのは良い。(日本学生支援機構奨学金の窓口含む)</li> <li>• 講師が授業以外に積極的にOB・OGを招いて在校生と接点を持たせる点は非常に評価できる。</li> <li>• 引き続き学費軽減する様々なシステムは良い。より一層の奨学制度や付加価値を高めてほしい。</li> </ul>

6	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目に合わせて教室をレイアウトし、各期に対応している点は良い。 特に2階教室を用途に合わせてホワイトボードを取払い、広く使用する点は他の施設ではできない事であるので面白い。</li> <li>・年間を通して夜間部時間帯まで自習で学校を解放している点は夜間部学生にとって課題の遅れ等もフォローできるので良い。 また、日曜日・祝日も解放しているので、あれば便利とは思いますが自宅にパソコンがなくても十分に学べる環境である。</li> <li>・工房に設置の機器・備品についても学生自らが使用方法を学び積極的に自身の課題作成に活用している点も評価できる。</li> </ul>
7	学生受入募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタグラムの積極的な活用は学生募集として効果的である。</li> <li>・一部の工房講座を体験入学と合わせる事で在校生ともコミュニケーションが取れ普通の学校生活が体験できる点は良い。</li> <li>・設定された学費は適正である。学び直しや経済的に苦しい学生もいると思いますので、少しでも入学のハードル（学費において）を下げる事ができると志願者も増えると思われる。</li> <li>・益々厳しくなる学生募集に対して、他校にない魅力づくりが大切。</li> <li>・学生の口コミ等も様々な所から情報を取る志願者からすると非常に重要な判断基軸。在校生に創造社デザイン専門学校に入学を決めた理由とさらに良かった点等をヒアリングして強化ポイントにする事も検討して欲しい。</li> </ul>
8	財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB ページで財務状況が公開されているので問題はなし。</li> <li>・学校の事業報告書も整備されているので、こういった事業が行われているかWEB 上で明示されている。</li> </ul>
9	法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令順守は当然のことで、今後も一層の法令順守をお願いします。</li> </ul>
10	社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業課題として地域連携（地域活性化・町おこしなど・商品開発）しているところが良い。</li> <li>・韮公園での子供向けのワークショップイベントの実施は近隣の方に楽しんでいただき、創造社デザイン専門学校の認知にもなった非常に有意義な企画であると思います。</li> <li>・短期訓練も継続実施できているので、こちらも優秀な人材を輩出している。</li> </ul>
11	国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度はフランスからも留学生が国際学生 WS に参加したので、その経緯も含めて非常に評価できる。韮公園のイベントも良い。</li> <li>・例年、マレーシアからの参加は継続しているが、是非他の国々からの参加も促して欲しい。創造社デザイン専門学校の大きな特色であるので引き続き力を入れてください。</li> </ul>

## 5.学校関係者評価 全体的な総括

評価項目	評価
総 評	<p>創造社デザイン専門学校の学生は卒業生の活躍がその証明にもなりますが、非常にレベルの高い学生が多いです。進級・卒業制作プレゼンテーション会や企業課題、企業実習など学生と関わる事が何度かありますが、十分に通用するレベルで学生の意識も高いと感じています。</p> <p>それらは特に力を入れて実施されている企業課題の学生提案の採択率にも表れていると思います。</p> <p>また、近年は大阪市消防局だけではなく、八尾市保健所との共創協定等、創造社デザイン専門学校学生の作品を見る機会が増えました。</p> <p>合わせて、DAS・JAGDA等の規模の大きなコンペでも結果が出ており、先生方のきめ細かい指導・実学が生きていると思います。</p> <p>3学科の特色についてもそれぞれ特化した内容を実施しており、最初の卒業生が出た今年度までの振り返りを行い、さらに各学科ブラッシュアップをしてください。</p> <p>また、これは学校全体に言える事ではありますが、AIとの関係について。AIを単なる脅威と捉えるのではなく、クリエイターが使いこなすべき強力な「道具」として位置づけ、「人間にしかできないコンセプト設計や問いを立てる力（デザイン思考）」をどう磨くか、その両輪のバランスをさらに精査して欲しいと思います。</p>

以上